

まとめ



- 「水」は、生物多様性にも気候変動にも大きく関係しているため、関連した取り組みとして取り組みを推進している。
- EDEKAの水の重要な取り組みは、原材料調達地（海外の農地を含む）にある。
- 重要な取り組みを進める優先順位付けが重要であり、EDEKAの場合は、比較分析を、品目＋調達流域を1セット、計9セットで実施した。
- 重要な取り組みを進める優先順位の考え方には、様々なレイヤーがあり、淡水の生物多様性、水リスク、商品としての重要度などがある。
- 優先的に取り組む場所では、AWS認証を進めている。その理由として、透明性、信頼性、といったことがある。
- 水リスクへの対応は、農園でのAWS認証にとどまらず、流域プラットフォームを立ち上げて、流域全体を俯瞰して課題を特定した上で取り組む、コレクティブアクションが必要になる。
- まずは最初の第一歩として、原材料品目＋調達地という形で水リスクを比較検討して、重要な場所で取り組みを開始してほしい。

今後の活動



【共同研究スタート】

項目	内容
目的	<ul style="list-style-type: none">・日本の輸入が世界の流域・淡水生態系に及ぼす影響を把握する。・またその手法を確立するための知見を得る。
位置づけ	<ul style="list-style-type: none">・パイロット研究として、食品輸入に焦点を絞る・日本企業との情報交換を経て地図化する
研究期間	<ul style="list-style-type: none">・2024年2月～2024年6月末
実施体制	<ul style="list-style-type: none">・WWFジャパン・和田義英・サウジアラビア・アブドラ王立科学技術大学 (KAUST大学)



KAUST大学
生物環境工学専攻 植物科学・環境科学・工学部
教授: 和田義英

